

地域密着型金融の取組み状況（30年4月～31年3月）

1. 項目	地域の活性化
2. タイトル	地域に適した業種への転業
3. 動機（経緯）	A社はB市の商店街の中で遊技店を営業していましたが、業界の衰退から将来の展望が見出せなかったことから閉店していた。その中で以前から取引があった当組合に同所を利用し転業の相談がありました。
4. 取組み内容	レストラン等の飲食店が入居できるテナントを建設したいというA社からの要望があったことから、案件の相談を受けた当組合は、所在地・環境などを現地で調査し、事業計画における入居予想などを精査したところ、同所は商店街の中心地に位置することから、昼夜問わず集客できる飲食店には適している場所であると判断し、建設費用等の融資を応需しました。
5. 成果（効果）	<p>【相手方にとっての成果】 業界の衰退から遊技店を閉店し、次の事業を模索していたところであり、地域を生かした業種への転換に繋がりました。</p> <p>【当行（金庫・組合）にとっての成果】 時代の変化とともに変わる地域の環境に適した業種への転換により、地域の活性化の一助を担えたものと考えております。</p>
6. 31年3月までの取組み状況に対する評価及び今後の課題	<p>【評価】 業界の衰退から遊技店を閉店しており、同所の地理的環境を生かし飲食店が入居できるテナントを建設し転業することになりました。時代の変化とともに変わる地域の環境に適した事業への転換は地域の活性化に繋がり、地域貢献が出来たものと考えております。</p> <p>【今後の課題】 地域の発展のために金融機関として何が出来るのかを考えていく事が大切であると考えております。</p>

1. 項目	中小企業の経営支援
2. タイトル	経営支援先に対する融資
3. 動機（経緯）	A社は、以前より経営支援を継続して実施している企業であり、製造業を営み屋外で商品を製造しております。数年前より外部コンサルタントを導入し効果が見られ始めている中、以前から同所で取得していた太陽光発電の権利を有効活用したいと考え、作業場に屋根を設置し、その上に太陽光発電の設備を建設したいと計画しました。
4. 取組み内容	太陽光発電事業による経済効果により、新たなキャッシュの支出がなく作業場に屋根が設置でき、屋根により雨天時にも商品を安定的に製造できる効果が生まれることから、屋根の建設費及び太陽光発電の設置費用の融資申込みとなりました。当組合は設備資金の妥当性、及びキャッシュフロー計画を検討した結果、A社の財務内容の改善の一助になると判断しました。
5. 成果（効果）	<p>【相手方にとっての成果】 借入額は増加になるものの、太陽光発電事業による経済効果により新たなキャッシュが生まれ、それにより天候に影響されない安定的な商品の製造を可能とする作業場の屋根を設置できることから、長期的に財務内容の改善に繋がるものと見込んでおります。</p> <p>【当行（金庫・組合）にとっての成果】 経営支援を継続して行っている会社であり、当組合の融資により太陽光発電事業による継続的な経済効果、及び屋根を設置することによる安定的な商品の製造による経済効果を得られることから、融資先の永続的な経営の手助けを担えたものと考えております。</p>
6. 31年3月までの取組み状況に対する評価及び今後の課題	<p>【評価】 以前から経営支援を継続しているA社への本件の取組みは、財務内容の改善に繋がる一助となり得たものと考えております。</p> <p>【今後の課題】 今後も継続的な経営支援は必須であると考えております。当組合としては、経営支援に対応出来るよう職員のスキルアップを図って参ります。</p>